

うめ

「うめ」には、「うめ」「小粒核果類」「核果類」「果樹類」に適用のある農薬を使用すること。

————— 発病・加害時期
 ============== 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
露地			開 花										
						収 穫							
黒星病				—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————
灰色かび病			—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————
カイガラムシ類(ウメシロカイガラムシ)				—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————
アブラムシ類				—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————
コスカシバ							—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————
アメリカシロヒトリ							—————	—————	—————	—————	—————	—————	—————
クビアカツヤカミキリ							成虫羽化	—————	—————	—————	—————	—————	—————
ハダニ類							幼虫活動期・フラス排出(樹食害)	—————	—————	—————	—————	—————	—————

黒星病

留意事項

- 1 SDHI剤<<7>>、QoI剤<<11>>は耐性菌が出現しやすいので1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 せん定時に病斑のある枝を切除する。
- 2 4月中旬～5月上旬の感染期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オーソサイド水和剤80](#) <M4> 【小粒核果類 800～1000倍 21日/3回】
- 3 発病を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トリフミン水和剤](#) <3> 【2000倍 14日/3回】
 - ・ [トップジンM水和剤](#) <1> 【小粒核果類 1000～1500倍 21日/3回】
 - ・ [ストロビードライフロアブル](#) <<11>> 【2000～3000倍 7日/3回】
 - ・ [パレード15フロアブル](#) <<7>> 【小粒核果類 2000～3000倍 前日/2回】

灰色かび病

留意事項

- 1 QoI剤<<11>>は耐性菌が出現しやすいので1作1回程度の使用に努める。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 発病が見込まれる時期(落弁期)に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ベルコート水和剤](#) <M7> 【2000倍 30日/3回】
 - ・ [スイッチ顆粒水和剤](#) <9> <12> 【3000倍 45日/2回】
- 2 発病を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) <<11>> 【3000倍 前日/2回】
 - ・ [ロブラール水和剤](#) <2> 【1000~1500倍 45日/2回】

かいよう病**留意事項**

- 1 風当たりの強い園で発病しやすい。

防除方法

- 1 防風垣、防風網を設置する。
- 2 被害枝はせん定時に切除する。
- 3 かいよう病の発病園では、3月中下旬に下記薬剤を散布する。
 - ・ [Zボルドー](#) <M1> 【500倍 発病前~発病初期(硬核期まで) / -】
- 4 展葉初期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [マイコシールド](#) <41> 【1500倍 21日/4回】

カイガラムシ類**防除方法**

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - (1) 休眠期
 - ・ [スプレーオイル](#) <UNM> 【30~50倍 発芽前 / -】
 - ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN> 【落葉果樹 7~10倍 発芽前 / -】
 - (2) 幼虫発生期(ウメシロカイガラムシ:4月下旬~5月中旬及び7月中~下旬、
タマカタカイガラムシ:5月下旬)
 - ・ [アプロードフロアブル](#) <16> 【カイガラムシ類幼虫 1000倍 7日/2回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 <4A> 【2000倍 前日/3回】
 - ・ [コルト顆粒水和剤](#) <9B> 【小粒核果類 2000倍 前日/3回】
 - ・ [モベントフロアブル](#) <23> 【小粒核果類 2000倍 7日/3回】

アブラムシ類**留意事項**

- 1 葉巻後は防除効果が低いので、発生初期に散布する。
- 2 ピレスロイド剤<3A>は散布後の高温乾燥で早期落葉を助長することがあるので注意する。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 <4 A> 【2000～6000倍 前日／3回】
 - ・ [アクタラ顆粒水溶剤](#) <4 A> 【2000～3000倍 7日／2回】
 - ・ [コルト顆粒水和剤](#) <9 B> 【小粒核果類 2000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3 A> 【3000倍 前日／2回】

コスカシバ

防除方法

- 1 食害が盛んな3月～4月頃及び収穫後に虫フンを出しているところを目標にナイフなどで樹皮を削り中の幼虫を捕殺する。
- 2 成虫発生初期(4月)にフェロモンディスペンサーを設置する。
 - ・ [スカシバコンL](#)
【果樹類 40～100本／10a(8g/100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け設置する。 成虫発生初期～終期／—】
- 3 秋季に下記の薬剤を樹幹部及び主枝に散布する。
 - ・ [フェニックスフロアブル](#) <2 8> 【200倍 開花期まで／1回】
- 4 休眠期に下記の薬剤を樹幹部及び主枝に散布する。
 - ・ [ガットキラー乳剤](#) <1 B> 【100倍 休眠期(落葉後～萌芽前)／2回】

アメリカシロヒトリ

防除方法

- 1 発生初期に幼虫が群生する葉を処分する。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [フェニックスフロアブル](#) <2 8> 【ケムシ類 4000倍 前日／2回】
 - ・ [アクセルフロアブル](#) <2 2 B> 【ケムシ類 1000倍 前日／3回】
 - ・ [BT剤](#) <1 1 A> (X果樹類の病害虫防除 果樹類 ケムシ類 参照)

クビアカツヤカミキリ

留意事項

- 1 幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。食害は5月～6月に最も盛んになる。
- 2 成虫は6月～8月頃に出現し、幹や樹皮の割れ目に産卵し、10日前後で卵がふ化する。
- 3 幼虫の食入した穴から出るフラス(かみ砕いた木くず・フン・樹脂の混合物)は、うどん状でこのフラスがある穴には幼虫がいる可能性が高い。フラス排出部位は、地表に現れた太い根から2mまでが多いが、3m以上の高い場所の場合もある。
- 4 キルパー40を使用するにあたっては、加害された伐倒木を集積したものまたは枯損木に、所定薬量を散布し、直ちにビニールシート等で密閉し所定期間(14日間以上)く

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ん蒸する。

くん蒸処理にあたっては、ガス化効率を十分確保するため日光の当たるところを選ぶほか、被覆するビニールシート等が風によりめくれないようにシートの裾は十分土等でおさえる。

防除方法

- 1 成虫は見つけ次第、捕殺する(6月～8月)。
- 2 株元から2m程度の高さまで防虫ネット(目合4mm以下)を二重、もしくは防虫ネット(目合0.4mm以下)を一重に巻き付け、羽化した成虫を閉じ込める。巻き付ける際は、上端、下端には隙間ができないように固定し、樹幹部はネットと幹表面の隙間を空ける。成虫がネットをかみ切ったり隙間から脱出したりする場合があるので、ネット設置後も定期的に見回り捕殺する。
- 3 うどん状フラスを見つけたら、フラスが出ている穴に千枚通しや針金等を入れ、フラスをかき出してから下記の薬剤を注入する。
 - ・ [ロビンフッド](#)、[ベニカカミキリムシエアゾール](#) <3 A>
【カミキリムシ類 樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射 前日/5回】
- 4 成虫発生期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤 劇](#) <4 A> 【2000倍 前日/3回】
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) <4 A> 【2000倍 前日/3回】
 - ・ [アクセルフロアブル](#) <2 2 B> 【1000倍 前日/3回】
 - ・ [テッパン液剤](#) <2 8> 【小粒核果類 2000倍 前日/2回】
- 5 被害の大きい樹や枝は9月～翌年3月の間に伐採・伐根し、破碎、焼却もしくは下記薬剤でくん蒸処理することにより適切に処分する。
 - ・ [キルパー40](#) <8 F>
【うめ(伐倒木、枯損木)被覆内容積1m³当たり原液750～1500ml
成虫羽化脱出前/1回】

ハダニ類

防除方法

- 1 休眠期(発芽前)に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN> 【落葉果樹 7～40倍 発芽前/一】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [マイトコーネフロアブル](#) <2 0 D> 【小粒核果類 1000～1500倍 3日/1回】
 - ・ [ニッソラン水和剤](#) <1 0 A> 【3000倍 7日/2回】
 - ・ [コロマイト乳剤](#) <6> 【小粒核果類 1000倍 前日/1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。